科目名	番組制作1							年度	2025
英語科目名								学期	前期
学科・学年	放送芸術科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	高沢敦博		教員の実務経験		なし	実務経験の職種			

【 科目の目的】

映画・映像評論家とならずとも、製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。

【 科目の概要】

この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。

【 到達目標】

学生が特に＜実習＞において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。
映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。

【 授業の注意点】

この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話をある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A 撮影・画角	撮影時のアングル、画角により全く別物になることを正しく理解している		撮影時のアングル、画角により全く別物になることをある程度理解している		撮影時のアングル、画角により全く別物になることを理解していない
到達目標 B 編集と意図	意図を持って映像は選択、抽出、繋ぎ合わせが行われていることを正しく理解している		言ってみれば作為的な編集をある程度理解している		理解していない
到達目標 C 非言語の理解	説明的なセリフはなくとも、映像で伝えようとしていることを正しく汲み取ることができる		映像で伝えようとしていることの雰囲気をくみ取れる		セリフがないと理解できない

【 教科書】

【 参考資料】

【 成績の評価方法・評価基準】

期末課題レポート

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	番組制作1	年度	2025
英語表記		学期	前期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	イマジナリーラインとは			イマジナリーライン	イマジナリーラインの意味を掴む。		
					テレビが伝える裏側を考える		
2	映像に隠された主題を見分ける			映像に隠された	丁寧に説明されないことを想像して解明する		
				主題を見分ける			
3	1950年代の映画と技法			1950年代の映画	現代よりも技術、機材が劣る中での表現		
				と技法	を学ぶ		
4	設定の重要性			設定の重要性	2時間以内の起承転結と設定の重要性を理解		
5	モンタージュ理論			モンタージュ理論	＜編集＞＜モンタージュ＞の技法の		
					重要性を学ぶ		
6	モンタージュ理論（２）			モンタージュ理論	20世紀の戦争映画を通してモンタージュの		
				（２）	実際を考える		
7	撮影・照明技術			撮影・照明技術	画面の色合いと撮影現場とのリンクを取る		
8	撮影技術（２）			撮影技術（２）	長回し映像、ワンショット映像の効果と		
					合成技術を理解する		
9	撮影技術（３）映画監督の監督性			撮影技術（３）	監督の個性がどのように画面に反映して		
				映画監督の監督性	いるのかを考える		
10	脚本と演出			脚本と演出	カメラを置く位置による役者の心情の表現		
11	映像に隠された主題を見分ける(2			映像に隠された	丁寧に説明されないことを想像して解明する		
				主題を見分ける			
				（2）			
12	社会問題の扱い方			社会問題の扱い方	ドキュメンタリーではない社会問題の		
					扱い方法を考える		
13	巨匠の映画術			巨匠の映画術	映画史に残る巨匠たちのノウハウを		
					言語化する		
14	ファンタジーの表現法			ファンタジーの	1950年代日本映画における「夢」の表現		
				表現法			
15	ファンタジーの表現法(2)			ファンタジーの	1999年洋画における「夢」の表現		
				表現法(2)			

評価方法: 1.小テスト 、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価: S: とてもよくできた、A: よくできた、B: できた、C: 少しできなかった、D: まったくできなかった

備考 等